

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年2月16日

協議会名:石狩市地域公共交通会議

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
石狩市	【北方面】 予約制デマンド方式 雄冬・千代志別・床丹・幌・群別 各戸から幹線交通に接続または 浜益温泉、診療所などまで 運行(月・木曜日)	平成29年5月に浜益区民全世界帯を対象に利用ニーズの把握のためアンケート調査を実施した。 調査結果に基づき、運行エリアの見直し、時刻表の改定を平成29年10月から行った。	B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。 特に南方面、東方面、北方面では、計画にない補助対象外の運行が多かった。	C 【事業の目標】 年間利用者数(10月～9月) 目標3,132人  実績1,011人  当初の想定よりも利用者が少なかった。また補助対象外の利用があったため、実績値としては、さらに低くなる要因となった。	利用者の満足度やニーズの把握をするためにアンケート調査を実施し、利用実態に合わせた運行エリアの見直し、時刻表の改定を平成29年10月から行ったうえで今後その広報・周知等の利用促進や更なる検証を行い改善を図っていく。さらに地域の住民だけではなく、北海道中央バスが運行する札幌厚田線との接続点が今春に開設予定の厚田区道の駅になるので、観光面からの利用者増に繋げたい。 また、平成30年度に石狩市地域公共交通網形成計画を策定し、地域の特性やニーズにマッチした公共交通網の構築に努めていくこととしており、日常生活に必要な不可欠なラストマイルとしてデマンド交通の継続的な運行を予定している。
石狩市	【南方面】 予約制デマンド方式 浜益・柏木・川下・毘砂別・送毛 各戸から幹線交通に接続または 浜益温泉、診療所などまで 運行(火・金曜日)				
石狩市	【東方面】 予約制デマンド方式 浜益・柏木・川下・実田・御料地 各戸から幹線交通に接続または 浜益温泉、診療所などまで 運行(水曜日)				
石狩市	【厚田方面】 予約制デマンド方式 浜益区内各戸から北海道中央バス札幌厚田線に接続(月～金曜日)				

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年2月16日

協議会名:	石狩市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>石狩市は札幌市の北側に位置し、南北に長く日本海に面している。面積は721.86km<sup>2</sup>、人口は約58,000人である。</p> <p>石狩市浜益区内を運行する公共交通の利用者は、区内の人口減少などを契機として減少の一途を辿っており、北海道中央バスの札幌浜益線(定期定路線)は浜益区の区間が不採算路線となり、平成28年3月をもって廃止となった。</p> <p>また、石狩市全体の高齢化率は30.0%(平成27年時点)であるのに対し、浜益区の高齢化は52.8%(平成27年時点)と高齢化が著しく進行している様子が見受けられ、高齢社会における地域住民の生活交通の確保が重要である。</p> <p>このようなことから、事業採算性を意識しながら高齢者等の交通弱者の「生活の足」を確保するための、利便性が高く、将来に亘って持続可能な公共交通体系を構築する必要がある。</p> <p>そのため、石狩市浜益区における高齢社会や住民ニーズに即し、かつバス交通に関する財政負担の軽減のため、浜益区内全域を網羅するとともに、幹線バス(北海道中央バス・沿岸バス)との接続を目的とした、持続可能な公共交通体系を平成28年4月より導入し、区民の生活利便性の向上を図ることを目的とする。</p>

# 石狩市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

石狩市は札幌市の北側に位置し、南北に長く日本海に面している。面積は721.86km<sup>2</sup>、人口は約58,000人である。

石狩市浜益区内を運行する公共交通の利用者は、区内の人口減少などを契機として減少の一途を辿っており、北海道中央バスの札幌浜益線(定期定路線)は浜益区の区間が不採算路線となり、平成28年3月をもって廃止となった。

また、石狩市全体の高齢化率は30.0%(平成27年時点)であるのに対し、浜益区の高齢化は52.8%(平成27年時点)と高齢化が著しく進行している様子が見受けられ、高齢社会における地域住民の生活交通の確保が重要である。

このようなことから、事業採算性を意識しながら高齢者等の交通弱者の「生活の足」を確保するための、利便性が高く、将来に亘って持続可能な公共交通体系を構築する必要がある。

そのため、石狩市浜益区における高齢社会や住民ニーズに即し、かつバス交通に関する財政負担の軽減のため、浜益区内全域を網羅するとともに、幹線バス(北海道中央バス・沿岸バス)との接続を目的とした、持続可能な公共交通体系を平成28年4月より導入し、区民の生活利便性の向上を図ることを目的とする。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

浜益区予約運行型年間利用者数 3,132人

## 平成29年度事業概要

北方面	南方面	東方面	厚田方面
予約制デマンド方式 雄冬・千代志別・床丹・幌・群別各戸から幹線交通に接続または浜益温泉、診療所などまで運行(月・木曜日)	予約制デマンド方式 浜益・柏木・川下・毘砂別・送毛各戸から幹線交通に接続または浜益温泉、診療所などまで運行(火・金曜日)	予約制デマンド方式 浜益・柏木・川下・実田・御料地各戸から幹線交通に接続または浜益温泉、診療所などまで運行(水曜日)	予約制デマンド方式 浜益区内各戸から北海道中央バス札幌厚田線に接続(月～金曜日)

## 地域公共交通の現況

- ・北海道中央バス(株)(市内22路線)
- ・沿岸バス(株)(市内1路線)
- ・浜益滝川間乗合自動車(1路線)(自家用有償)
- ・スクールバス(17路線)(混乗含む)
- ・タクシー会社3社

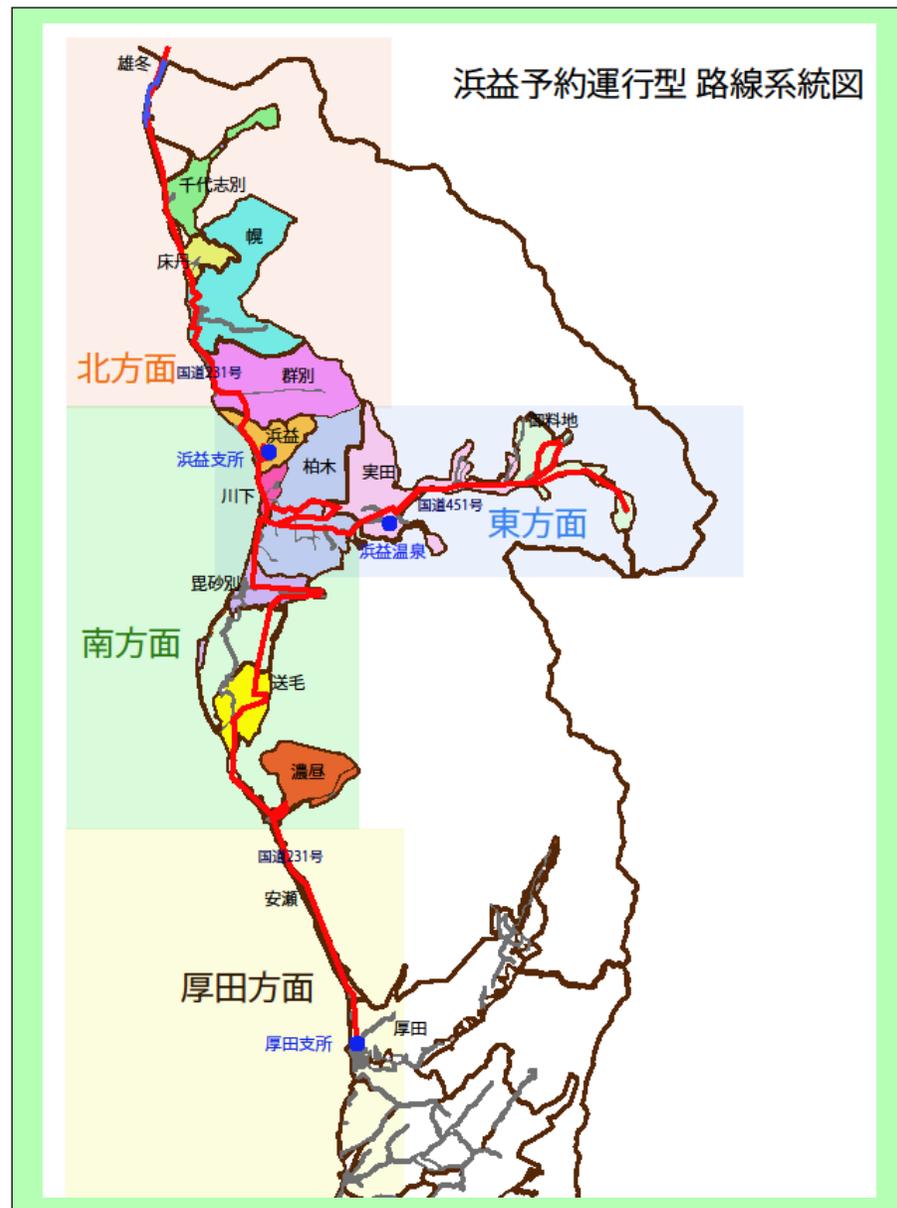
## 協議会開催状況

- <平成28年6月22日>平成28年度第1回石狩市地域公共交通会議(書面協議)
- ・地域生活交通確保維持改善計画の提出について
- <平成29年1月16日>平成28年度第2回石狩市地域公共交通会議
- ・地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について
- ・浜益スクールバスの運行経路及び運行時間の変更について
- <平成29年5月23日>平成29年度第1回石狩市地域公共交通会議(書面協議)
- ・生活交通改善事業計画の計画策定について
- <平成29年8月7日>平成29年度第2回石狩市地域公共交通会議
- ・石狩市生活交通確保維持改善計画の提出について
- ・自家用有償旅客運送の変更及び更新登録申請について

## 1) プロセス、創意工夫

- ・浜益区民を対象に回覧で利用促進をPRした。
- ・チラシを全戸配布(浜益区内)家庭で保管できるようにした
- ・区内全戸にアンケート配布、現状を把握し運営に役立てた。
- ・市内の公共施設、北海道中央バス札幌バスターミナル、石狩営業所等に浜益厚田間乗合自動車の運行チラシ、厚田発着便の時刻表を掲示して周知を図った。

## 2) 運行系統

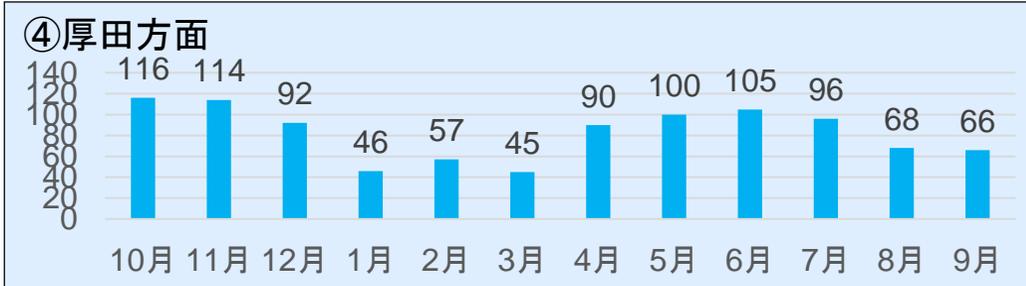


### 3) 利用実績 (平成28年4月～28年9月の利用人数) 単位:人

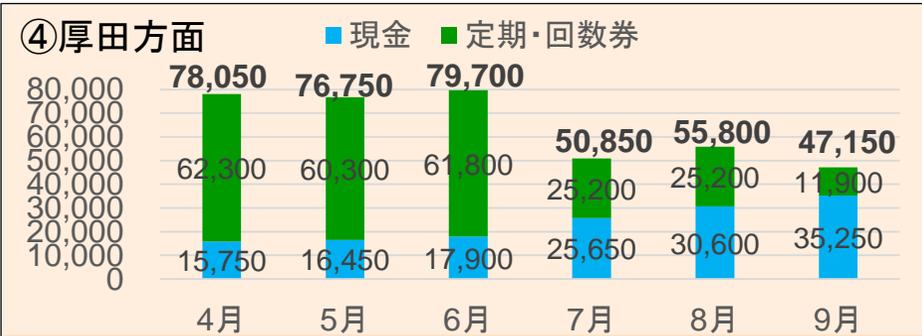
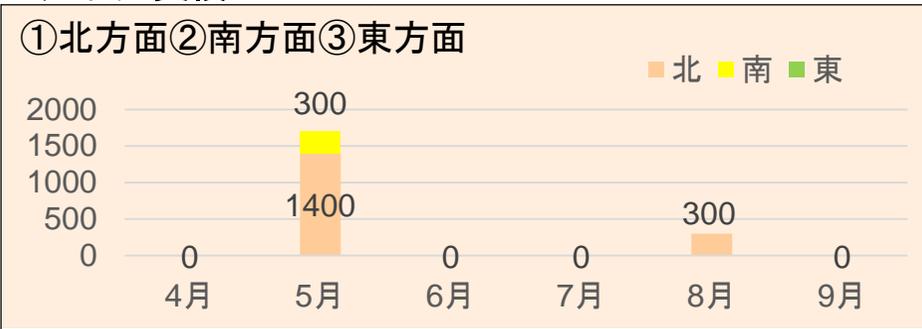


### (平成28年10月～29年9月の利用人数)

単位:人

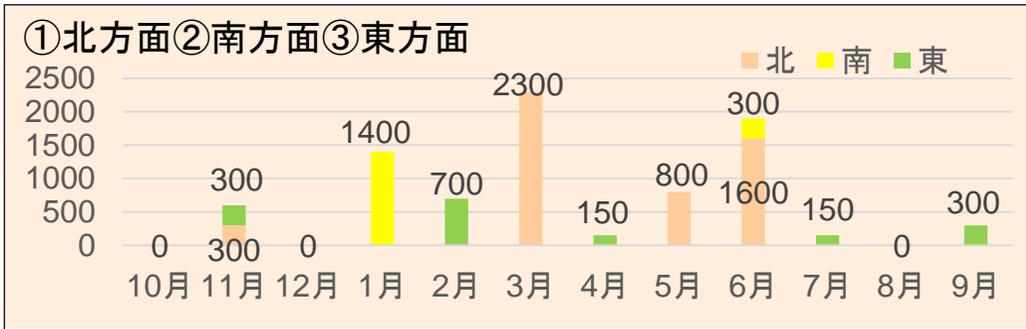


### 4) 収入実績 (平成28年4月～28年9月の運送収入) 単位:円



### (平成28年10月～29年9月の運送収入)

単位:円



※定期・回数券については、石狩市立浜益中学校部活動生徒を対象に石狩市が負担する定期券購入費用半額分(3月歳入)を追加後の金額

## 5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。  
特に南方面、東方面、北方面では補助対象外となってしまう運行が多かった。

## 6) 目標・効果達成状況

### 【事業の目標】

年間利用者数(10月～9月)

目標3,132人

実績1,011人

当初の想定よりも利用者が少なかった。また対象外の利用があったため、実績値としては、さらに低くなる要因となった。

## 7) 事業の今後の改善点

利用者の満足度やニーズの把握をするためにアンケート調査を実施し、利用実態に合わせた運行エリアの見直し、時刻表の改定を平成29年10月から行ったうえで今後その広報・周知等の利用促進や更なる検証を行い改善を図っていく。さらに地域の住民だけではなく、北海道中央バスが運行する札幌厚田線との接続点が今春に開設予定の厚田区道の駅になるので、観光面からの利用者増に繋げたい。

また、平成30年度に石狩市地域公共交通網形成計画を策定し、地域の特性やニーズにマッチした公共交通網の構築に努めていくこととしており、日常生活に必要不可欠なラストマイルとしてデマンド交通の継続的な運行を予定している。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

※平成29・30年度事業一括で翌年度評価